

事業者向け

放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			1名もしくは2名の個別支援の為、十分なスペースである。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			1対1で指導できる体制を整えている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		階段部分には手すりを設置している。現在は車いす利用者はいないが、今後あった場合には、スタッフの対応を検討をしていく必要がある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			指導者間での情報共有は密に行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか			○	まだ1度も実施出来ていないため、早急に準備して実施していく予定である。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか			○	まだ実施はしていないが、今後ホームページ等で公開予定である。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	評価は行っていないが、他事業所や相談員の方との情報交換は行っている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			新人スタッフやアルバイト等への研修や、指導者の運動指導に伴う研修を随時行っている。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			契約時にアセスメントシートを記入してもらい、面談で子どもと保護者のニーズや課題を話し合いサービス計画に活かしている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			運動についての共通のアセスメントシートを作成し活用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			指導者間でプログラムについての話し合いをしながら、立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			個々の運動内容に合わせたプログラムを考え、固定化しないよう行っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		○		個々の課題内容により、指導を行っている為、平日、休日に分けてはいない。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか			○	当事業所は、個別指導のみの為、集団活動は行っていない。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			打ち合わせを必ず行い、指導内容や役割分担について確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			終了時には、指導の振り返りをし、指導者間の情報共有を行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			活動内容や子どもの様子の記録入力を必ず行い、次回の指導についての確認や改善点を検討している。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか		○		必要に応じてモニタリングを行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○			利用者やその家族からの要望等の把握や聞き取りを行い、個別のプログラムを作成し、支援を行っている。指導者の資質向上にも努めている。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			サービス担当者会議には基本的には責任者が参加している。責任者が難しい場合は他のスタッフが必ず参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか		○		送迎業務を行っていないこともあり、学校との情報共有は行っていない。保護者の方を通して学校での様子を把握するようにしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○		医療的ケアが必要な子どもを受け入れるケースはまだないが、契約時にかかりつけ医の確認を行い、書面への記入をお願いしている。今後受け入れる場合は、主治医との連絡を行っていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○		直接連絡を取ることはないが、保護者を通じて子どもの様子を把握するようにしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			○	該当者がまだおらず、支援内容等の情報提供は行っていないので、今後行っていく予定である。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			近隣の児童発達支援センターの見学会に参加したり、障害者支援センター等の研修会に参加し、情報共有している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	個別の運動指導のみの為、そういう場での活動は難しい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			○	現在は参加していないが、今後参加することも検討している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			毎回の指導後に保護者の方とお話しし、指導内容や様子などを伝えている。保護者の方からも、家庭や学校での様子や指導内容の要望等を伺い、共通理解できるようにしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			色々な運動種目の練習の仕方等、必要に応じて伝えている。
関係機関や保護者との連携	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時等に、十分な説明をするように努めている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			相談があった場合、指導者で対応できるものについては即時に対応し、難しい場合には専門家に相談できる態勢を整えている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	特に開催はしていないが、一部の保護者同士では、情報交換等をしている様子が見られる。
保護者への説明責任等						

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			指導者間で解決に向け、協議検討して適切に対応できるように努めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか			○	事業所の会報発行や行事などは行っていないが、ホームページでは、情報を発信している。
	35	個人情報に十分注意しているか	○			鍵付きのロッカーを使用し、厳重に管理をしている。ホームページの写真掲載についても十分注意している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			理解できるように、ゆっくりと説明や声かけをし、言葉の理解が難しい時は視覚的に理解できるように工夫している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	個別の運動指導のみで行っている為、行事等は行っていない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか			○	指導者間では情報共有をしているが、保護者への周知は徹底されていないので、早急に徹底させていく必要がある。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか			○	避難場所等の確認は行っているが、訓練は行っていない。今後実施を検討していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか			○	まだ研修会は行っていないが、指導者間で確認をしながら適切な対応をしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか			○	対象となる子どもは利用していないので、そのようなケースはまだないが、今後やむを得ず身体拘束をする場合を考え、保護者に十分に説明をし了解を得た上で、計画書に反映していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			○	個別運動支援の為、食事やおやつを食べるケースはないが、アセスメントシートに記載する項目を設けており、子どもの把握に努めている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか			○	まだ事例集を作成してはいないが、危険箇所や事例は指導者間で情報共有を図り、予防策も検討している。